

事務事業名	縄文プロジェクト推進事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係	連絡先	232	

計	政策番号	07	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
			基本計画①	03	縄文を活かしたまちづくり、ひとづくりの推進	#N/A										
			基本計画②	01	縄文プロジェクト	0000	複数の柱にまたがる事業									
			実行計画	01	縄文プロジェクト	0000	複数の柱にまたがる事業									
画	予算事業名	縄文プロジェクト推進事業費					会計コード	01	款	02	項	01	目	07	事業	04
	事務事業の概要	縄文プロジェクトを推進し、市民の方の縄文文化に対する関心や理解を高め、縄文を活用したまちづくり、まちおこしを行う。また、茅野市の宝である「縄文」をシティプロモーションの重要なコンテンツとして位置づけ、「ハケ岳JOMONライフフェスティバル」などの事業も随時行っていく。														
	現状と背景	当市には、縄文時代の国宝や特別史跡があるが、この資産を十分に活用できておらず、また市民の方の関心も決して高いとは言えない状態である。特徴的な日本文化としての「縄文」を発信するには、1自治体の発信では限界があり、ネットワーク化が求められている。														
	目的	受益者	市民、事業者													
L	対象	対象	市民、事業者、関係部署、来街者													
	的意	意	縄文プロジェクト構想を見直してより具体的な基本計画を立て、それに基づき縄文を活用した（根づかせる）事業を展開する。それにより、茅野市の知名度向上と、市民の方の縄文文化に対する関心や理解を高める。													
	手段・方法	方法	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文プロジェクト実行市民会議を開催し、推進事業の連絡・調整を行う。 ・縄文を活用したイベントや事業を行う。 ・縄文ふるさと応援団の会員拡充と縄文プロジェクトHP等の発信を行う。 ・縄文に関連した商品が一つでも多く開発されるように補助金により支援を行う。 ・縄文による他市町村とのネットワークを構築していく。 													
	A	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
1			縄文プロジェクト実行市民会議の開催	市民会議の開催	回		2									
2			縄文ふるさと応援団会員の拡充	縄文ふるさと応援団会員延数	回	縄文を広める応援団の登録延べ人数	2,000									
3			女神のクールビズの拡散	女神のクールビズ協力事業者数	件	女神のクールビズ協力事業数延べ数	20									
N	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値										
		1	市民の認知度	関心度	%	市民アンケートでまちづくりに縄文が活用されていると思う市民の割合	100									
		2	縄文プロジェクトへの関心	プロジェクトHP年間アクセス数	件数	縄文プロジェクトHPへのアクセスを通じて関心度を上げていく（5000/月×12か月）	60,000									
		変更履歴														

実	施	状	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
			事業費等(a)	円	2,087,022	1,079,760	15,267,000			
			財源内訳	円						
			国庫支出金	円						
			県支出金	円						
	況	指	活動指標	市民会議の開催	目標	2	2	2		
					実績	2	1			
					達成率	100.00	50.00	-	-	
				縄文ふるさと応援団会員延数	目標	2,000	2,000	2,000		
					実績	1,346	1,379			
					達成率	67.30	68.95	-	-	
				女神のクールビズ協力事業者数	目標	20	20	20		
					実績	15	15			
					達成率	75.00	75.00	-	-	
D	成	果	関心度	目標	100	100	100			
					実績	57	34			
					達成率	57.00	34.00	-	-	
				プロジェクトHP年間アクセス数	目標	60,000	60,000	60,000		
					実績	130,000	68,029			
					達成率	216.67	113.38	-	-	
O	備	考								

事務事業名	縄文プロジェクト推進事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係	連絡先	232	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		縄文プロジェクトの認知度や関心は高くない。しかし、縄文ふるさと応援団の会員数や、縄文プロジェクトのHPへのアクセス数の増加等から、茅野市のまちづくりに興味、関心があり協力したいという気持ちを持つ市民の方は増加している。	尖石縄文考古館の来館者数は5万人を超え安定している。また、縄文プロジェクトのHPへのアクセス数は目標値を越えているものの、前年の数値には届言えておらず、これは、市民に縄文プロジェクトの取組が見えていないことが数字に表れた結果であると思われる。さらに関心度を上げるためには、市民に対してプロジェクトの取組について認識いただかなければならない。		
価値（C H E C K）	成果	縄文プロジェクトの取組により、縄文文化をまちづくりに生かす取り組みが根付いている。積極的に事業を実施している。 長野・山梨の関係14市町村で構成した縄文文化圏が日本遺産に認定された。	日本遺産とタイアップした周知活動や認知度アップのための施策を行い誘客につなげることができた。			
	課題	縄文プロジェクトへの関心は決して高くない。全ての方に取り組みを認識していただき興味をもっていただけるような施策を展開する必要がある。	縄文プロジェクトへの関心は決して高くない。プロジェクトの考え方や方向性を整理し、全ての方に取り組みを認識していただけるような施策を展開する必要がある。			
改革	翌々年度方向性	成果 拡充	拡充			
	コスト	拡大	拡大			
改善の方向性（A C T）	改善の方向性の内容	<ul style="list-style-type: none"> より柔軟な発想からの新たな視点で、まちづくりに生かすための展開を検討する。 第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルに向けた体制づくりをし、内容についても参加したくなるような企画の構築を図る。 日本遺産の協議会や縄文文化発信サポーターズなど、広域的に連携した縄文文化の発信を行う。 第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルが開催される予定からコスト増となる。 現在実施している事業の定着とさらなる発展。 	<ul style="list-style-type: none"> 縄文に関心を持ってもらう契機として、第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルを開催する。 日本遺産の協議会や縄文文化発信サポーターズなど、広域的に連携した縄文文化の発信を行う。 第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルが開催されることからコスト増となる。 縄文プロジェクトのコンセプトに沿った事業を展開するため、プロジェクトの方向性について見直しを行う。 			

作成担当者	小林 弘夫	小林 弘夫			
最終評価責任者	田中 裕之	田中 裕之			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			